



令和二年師走

城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 156名
○真剣に学ぶ生徒	2年 176名
○健康な生徒	3年 156名
	特別支援学級 7名
	全校生徒数 495名

目に見えないものと向き合う中で

校長 玉崎 芳行

朝の学校は静かだ。その静寂に包まれ、冷気を帯びた昇降口に人影が見える。時計に目をやると、7時40分くらいだった。気になって、職員室前廊下から左に折れ、その人影を確認した。一人の生徒が下駄箱を前にし、何やら動いている。靴を履き替えるでなく、教室に向かうでなく、体を動かしている。不思議に思い、近づいて声を掛けた。

「おはよう、早いねえ。」

「おはようございます！」

爽やかな彼の挨拶は、秋の静かな早朝の空気に、一層清々しく響いた。彼は、下駄箱を一つ一つ、丁寧に雑巾で拭きあげていた。周りには、誰もいない。彼、一人だけだ。この時間に、なぜみんなの下駄箱を拭いているのか、その理由を尋ねた。彼は、少しはにかんだ面持ちで答えてくれた。

「習慣で朝練があった時間に起きるので、そのまま登校してたら、何かみんなのためにできることはないかな、と思って。下駄箱がきれいなら、みんなも気持ちいいかな、って。で、みんなが気持ちよく生活できれば、みんなの勉強も受験もうまくいくかな、って思って。」

日によって、階段を掃除したり、窓を開けたりしているとのこと。彼の心の美しさ、人を思う優しさに、頭が下がった。このような素敵な3年生が、チーム城北にいてくれる。

夕暮れどきの校長室に、ピンと張り詰めた緊張感が漂う日々が続いた。3年生の進路実現に向けた『模擬面接』を行った。みな、礼節と誠意を携え、自分のことばで、自分の考えを一生懸命伝えていた。大変立派だった。面接の中で、「あなたの3年間を色で表すと何色でしょうか。」と問うた。

「燃えるような日々だったので赤です。」「楽しいこと辛いこと、いろんなことがあったので虹色です。」「青です。空に届くくらい伸び続けたので！」「草木が成長するイメージで緑です。」

みな、自らの成長に、自信と誇りをもって返していた。凛々しくて立派だった。

そして、最後の質問として、「義務教育修了の時を迎えようとしています。3月の終わりに、お家の方に思いを伝えるとしたら、どんな言葉で伝えますか」と。

「今日まで支えてくれてありがとう、と言います。」「9年間本当にお世話になりました。ありがとう、と伝えます。」「これからもよろしく願います、と伝えます。」「産んでくれてありがとう、と言います。」あなたの真心を、次の桜の便りが届くころには、お家の方に直接伝えてほしい。

このような誇らしい先輩が、チーム城北にいてくれる。

令和二年、目に見えないものと向き合う中で、目に見えない大切なものに気づき、磨きあげていたあなたに、心を込めて拍手を贈る。年の瀬を迎える。あなたを鑑とし、己を振り返ろう。自分を映す心の鏡の大掃除をし、新しい年を迎えたい。